

## 5月度土曜例会(2008/05/17)

予定されていた **guest speaker** が突然のキャンセルとなり、今回は会員の **group talking** に変更となりました。しかし、ゲスト担当の役員さんが気転を利かせて二人の外国人ゲストを呼びました。 **Wiedenholf** ご夫妻はご主人がフランス人、奥様がルーマニア人というお若いカップルの阪大留学生です。このお二人がそれぞれにグループに入ってください、常に笑い声が起るグループ、流暢な英語が滑らかに聞こえてくるグループ、地図を広げて頭を寄せて話し込むグループ、ご夫婦のゲストの馴初めに盛り上がるグループと、英語のバリアーを越えたコミュニケーションの空間が広がりました。今回はそんな一場面をお伝えします。



はじめに約 **30** 人の会員が **4** グループに分かれ、「ゴールデンウィークをどう過ごしたか」について一人ずつ話しました。お孫さんと過ごした公園のこと、北海道の素晴らしいホテルの話、山口県の道路と政治の関係、ニュージーランドの今昔についてと、内容はテーマに拘らずそれぞれにどんどん広がっていきました。



暫くすると我々のところに男性のゲストが加わり、待ってましたとばかりに、それからはフランスのあらゆることについての質問が飛び交いました。彼はそれらの質問に丁寧に誠実に答えてくれました。<大統領について～段々失望してきているのは、彼がした大きな約束（例：社会をあらゆる面でストップしてしまうストライキを多用する労働組合へのコントロールなど）が果たされていないから>というお堅い話から<ワインとビールについて・パリジェンヌの今昔>という気楽なお話まで、**20** 分の持ち時間はあっという間に

終わり、彼は次のグループに回られました。

もう暫くすると今度は女性ゲストの登場。どんなに日本がお好きかという話になると、人懐こい目を輝かせて答えてくださいました。有馬温泉に行かれた事から始まり、温泉フェチのこと、納豆が大好きなこと、日本の花や庭のこと、と上級クラスの日本好きの一面を熱く語ってくださったのです。日本での留学を終えたらフランスに滞在し、ルーマニアにも戻り、大学院に進み、司法試験を受けてと、今後の進路のことをお話しする表情には自由で希望に溢れる未来が待っているのだという確信が見て取れました。彼女の倍かそれ以上生きてきて今更ながらではありますが、ちょっと羨ましい気分・・・。

あっという間に **2** 時間が過ぎてしまいました。 **Group Talking** はお互いの英語力をさらして裸になる要素がありますが、それだけに大人が親しくなれるのかもしれませんが、勇気を出して「素」になれた所から、仲間意識が生まれ、自分の英語のレベルを知り、これからも頑張る



う！と思えるのではないのでしょうか。また、姉妹都市活動室には、いろんな種類の行事があります。その機会を活用して仲間と思える人間関係を作っていけたら、こんなに繋がれる団体もありません。誰かのために、時間も労力も惜しまない私たちでありたいです。

<お知らせ> 6月7日 **Home visit** の受け入れ家庭を募集しています。